

シンガポール航空(SIAL)

エア・インドアの持分法投資損失計上も、座席を相互に供給する共同運航の大幅拡充でインドの成長を取り込む

シンガポール | 旅客航空 | 業績フォロー

BLOOMBERG SIA:SP | REUTERS SIAL.SI

- 2026/3期2Q(7-9月)は、総収益が前年同期比2.2%増、営業利益が22.4%増。旅客需要増、燃料費減少も、競争激化でイールドが悪化。
- 約25%を保有するエア・インドアの持分法投資損失の計上が響き大幅最終減益。エア・インドアは墜落事故の影響で経営改革が難航。
- 2024年11月にエア・インドアとの間で座席を相互に供給する共同運航を大幅拡充。成長著しいインド国内線も販売できるようになった。

What is the news?

11/13発表の2026/3期2Q(7-9月)は、総収益が前年同期比2.2%増の48.84億SGD、営業利益が同22.4%増の3.98億SGD、純利益が同81.9%減の0.52億SGD。旅客輸送容量(総座席数×輸送距離キロ)当たり収入(RASK)は1.1%減の8.6セント(SG)、旅客1人を1キロメートル輸送して得る収入(イールド)が3.0%減の9.8セント(SG)と悪化したものの、乗客有償座席利用率(ロードファクター)が2.1ポイント上昇の87.9%、傘下のLCC(格安航空会社)スクートを含む、のべ旅客数が9.1%増の1050万人に拡大したことが増収に貢献した。燃料支出の減少により、売上高総支出比率が1.4ポイント低下の91.8%へ改善したことにより営業増益となったものの、同社が25.1%を保有するエア・インドアの持分法投資損失の計上により大幅最終減益となった。

2Qの主な事業セグメント別の売上高は、①旅客輸送収入が前年同期比2.2%増の39.24億SGD。②貨物輸送収入は同3.7%減の5.40億SGDだった。

会社別の利益では、①フルキャリアのシンガポール航空の営業利益が31.0%増の4.16億SGD、②格安航空のスクートの営業利益が0.05億SGDから▲0.22億SGDへ赤字転落、③整備・メンテナンスを行うSIAエンジニアリングの純利益が13.5%増の0.44億SGDだった。

How do we view this?

航空需要の回復基調を受けて旅客数が堅調に増加中であり、年末ピークシーズンに向けて臨時の増便を実施することも収益増に貢献することが見込まれる。その一方、アジア太平洋における容量過多と競争激化のため、運賃単価に関するイールド低下が続いていることが当面の課題となっている。また、燃料価格の下落の影響を除けば、人件費増加や物価上昇に伴うコスト管理も強化も今後必要になると考えられる。

子会社でインドの新興航空ビスタラと大手財閥タタ・グループ傘下のインド航空大手エア・インドアの2024年11月の合併により、シンガポール航空がエア・インドアの25.1%を取得することになった。シンガポール航空とエア・インドアは座席を相互に供給する共同運航の大幅拡充で合意。エア・インドアは足元で6月の墜落事故のため新体制による経営改革が難航しているものの、シンガポール航空がインド国内線も販売できるようになることで、シンガポールとの接続が向上し、インド各地から東南アジアへ観光客を呼び込みやすくなると見込まれる。

業績推移

※参考レート 1SGD=121.55円

事業年度	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3F	2027/3F
高(百万SGD)	17,774	19,012	19,539	19,412	19,895
利益(百万SGD)	2,156	2,674	2,778	880	1,092
iGD)	0.35	0.61	0.85	0.29	0.37
PER(倍)	13.70	9.20	7.54	21.93	17.19
iGD)	4.60	4.96	5.25	5.06	5.23
PBR(倍)	1.04	1.14	1.22	1.26	1.22
(SGD)	0.38	0.48	0.40	0.21	0.23
配当利回り(%)	7.92	8.50	6.24	3.27	3.57

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

フィリップ証券株式会社

配当予想(SGD) **0.21** (予想はBloomberg)
 終値(SGD) **6.36** 2025/12/23

会社概要

1947年に「マラヤンエアウェイズ」として創業。その後、1972年にマレーシア航空と分離して設立。同社グループは親航空会社のシンガポール航空、シルクエア、スクート、SIAカーゴ、SIAエンジニアリングで構成される。旅客輸送と貨物輸送が主要な収入源。

①親航空会社のシンガポール航空(SIA)は、シンガポール航空ブランドを展開し、旅客にフルサービスの航空輸送を提供する。

②子会社のシルクエアは、シルクエアブランドの下、旅客にフルサービスで近距離路線向けの航空輸送を提供している。

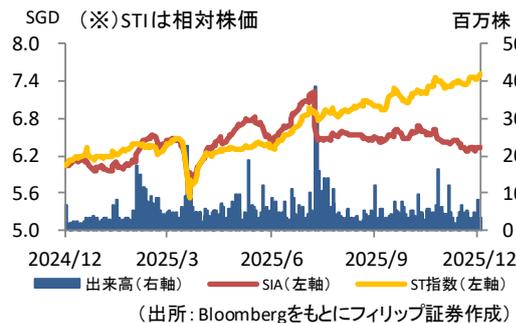
③格安航空子会社のスクートは2017年にタイガーエアと統合し、スクートブランドで世界60都市以上のネットワークを有する。

④航空貨物輸送を行うSIAカーゴは、国際航空貨物輸送では世界3位を占める。

⑤シンガポール取引所に上場する子会社のSIAエンジニアリングは、航空機のメンテナンス、修理、オーバーホール(MRO)の業界リーダーの地位を占め、世界80社以上の航空機のためにMROサービスを提供する。

企業データ(2023/5/23)

ベータ値 0.94
 時価総額(百万SGD) 20,185
 企業価値=EV(百万SGD) 24,452
 3ヵ月平均売買代金(百万SGD) 31.7



主要株主(2025/12)

(%)
 1. テマセク・ホールディングス 50.38
 2. VANGUARD GROUP 1.90
 3. ブラック・ロック 1.86

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhito.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。